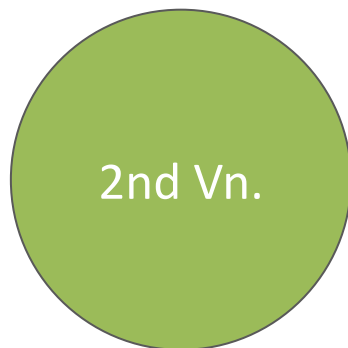
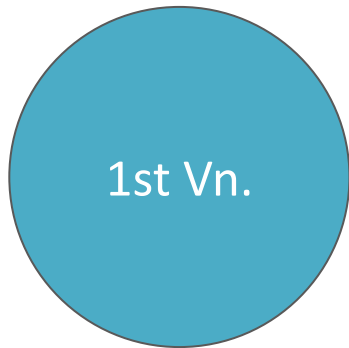


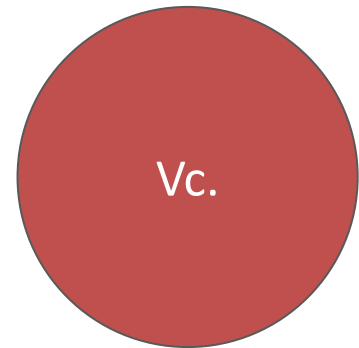
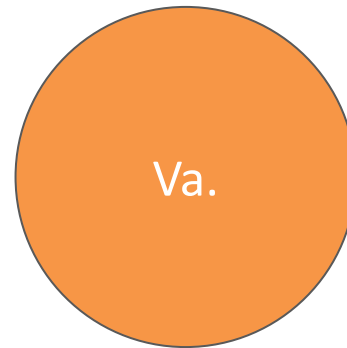
2-6 フォーム4: デュアルオブリガート型

デュアルオブリガート型

1st&2ndは上声部



Vla.&Vlc.は下声部



デュアルオブリガート型の特徴

- ① 1st+2nd、Va.+Vc.の2ペアでそれぞれメロディを演奏
- ② 2つの旋律が同時に絡み合う、対旋律に特化したアレンジスタイル
- ③ メロディ要素しかないため、コード、ベース、リズムの要素は他のパートに任せることが前提
- ④ さらに細分化して、トリプルオブリガート、クワッドオブリガートスタイルも可能(だが超難しい)

Strings

Intro

Prospero M01

稲毛 謙介

♩ = 220



1

2

3

4

5

6

7

8

9

×口1

Violin I

Violin II

×口2

Viola

Violoncello

Vln. I

Vln. II

Vla.

Vc.

V.S.

©2020 TEMPEST STUDIO Co., Ltd.

デュアルオブリガート型のアレンジのポイント

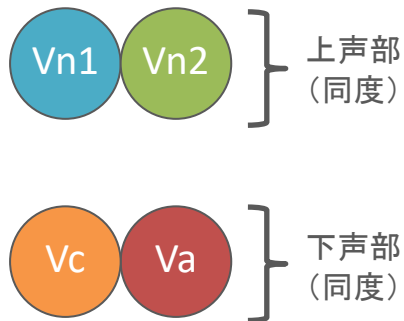
デュアルオブリガート型はあくまでメロディ要素しか持ち合わせてないため、コード楽器やベース楽器、リズム楽器との併用が必須。

■ デュアルオブリガート型アレンジの楽器組み合わせ例

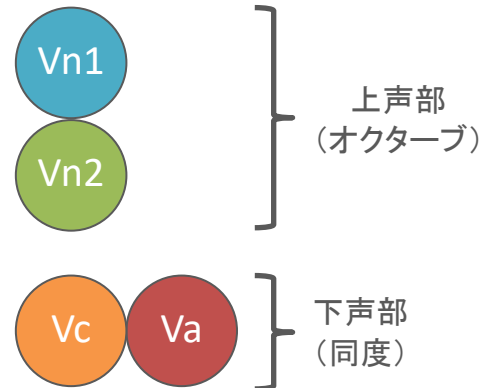
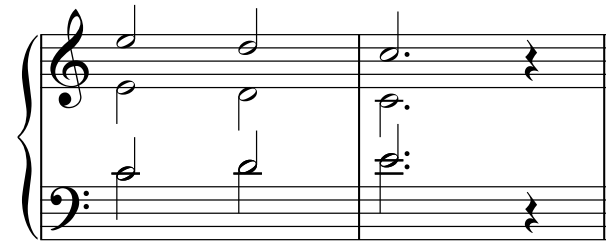
- ✓ メロディ(またはオブリガート) → スtringス
- ✓ コード → ピアノやギターなどのコード楽器
- ✓ ベース → エレキベース、シンセベースなどのベース楽器
- ✓ リズム → ドラム、ギターカッティングなどのリズム楽器

デュアルオブリガート型のボイスング

パターン1: 上声部、下声部ともに同度

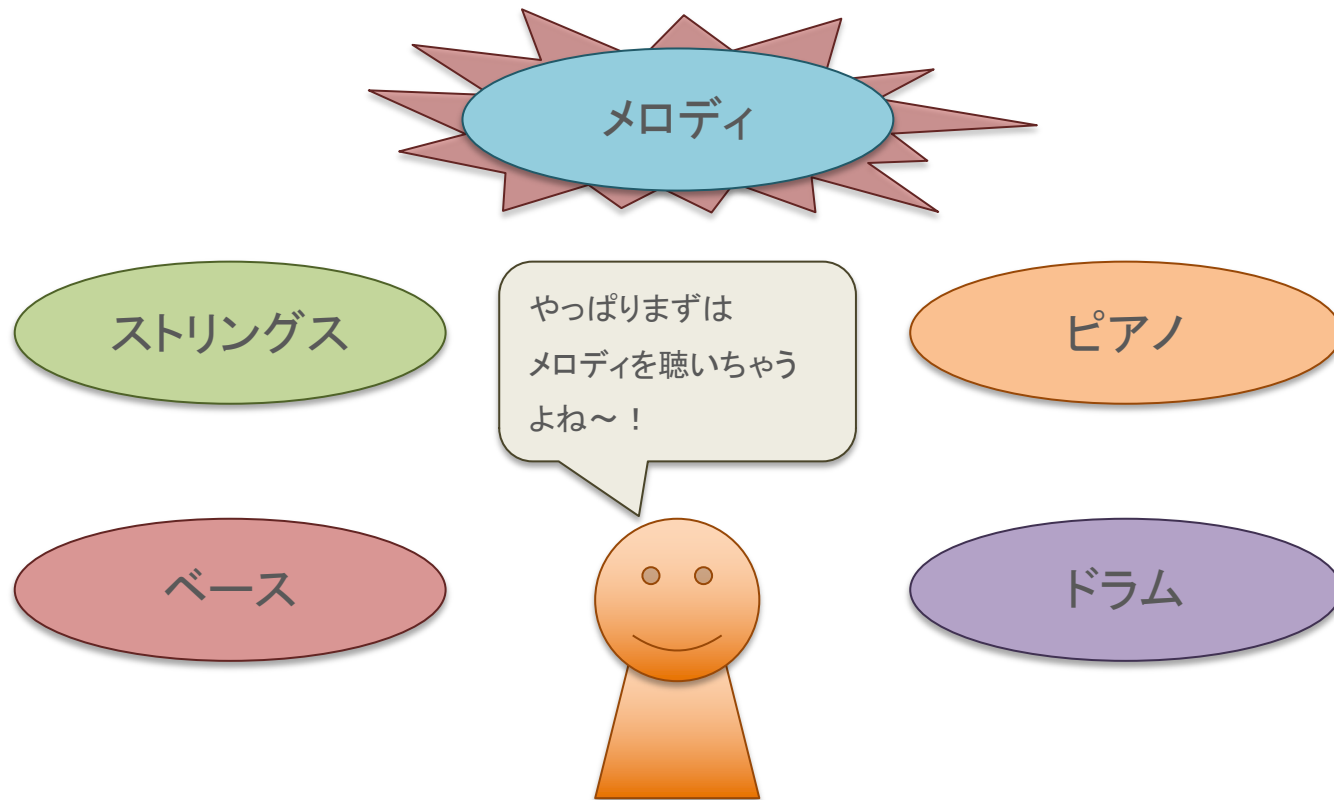


パターン2: 上声部はOct、下声部は同度



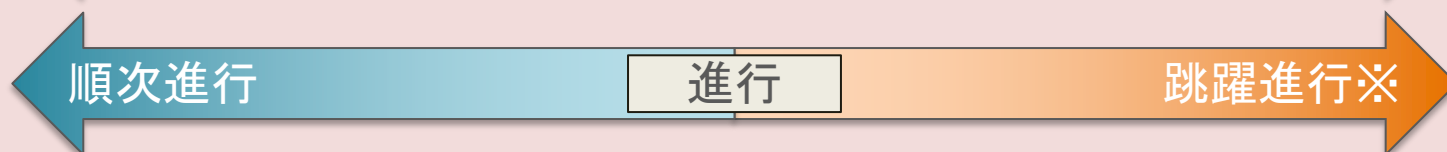
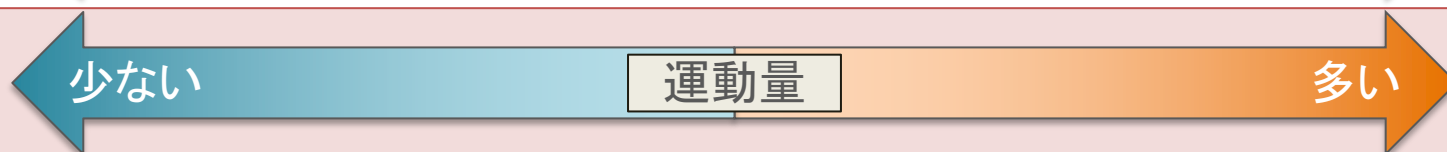
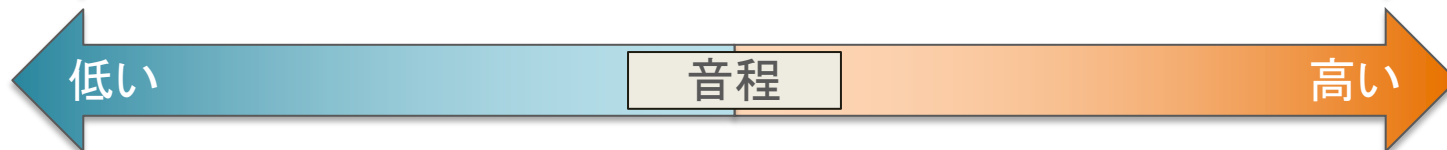
フォーカス度について

フォーカス度とは？



フォーカス度と音楽的要素の関係性

低い ← フォーカス度 → 高い



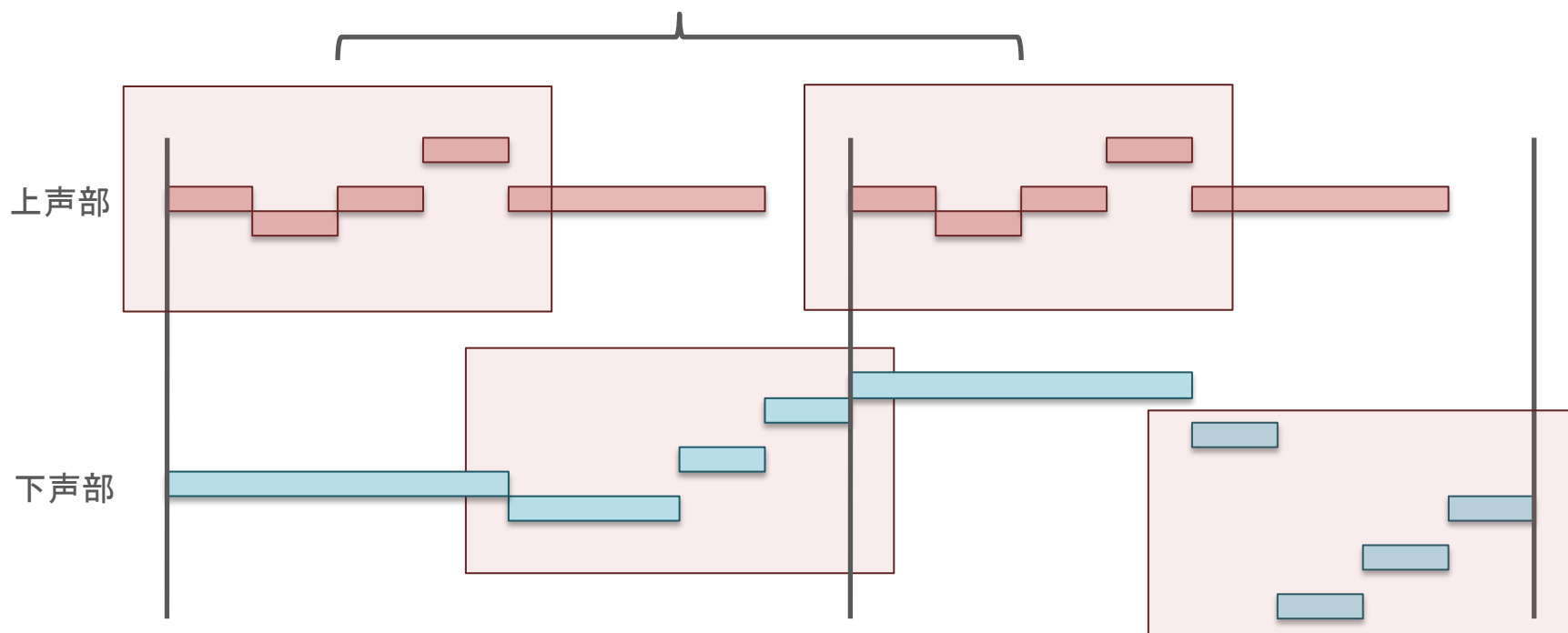
ここが大事！！

※トライアドの構成音が連続するとフォーカス度は下がるので注意。

2つの旋律を同時に扱うコツ

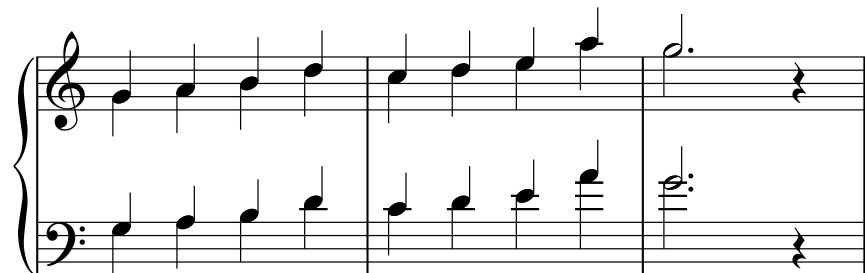
互いの間の手を取り合う

それぞれの間の手を取り合うようにライン取りするのがキモ



運動量を控えめにする

四分音符の動きはそこまでフォーカス度を高めない。

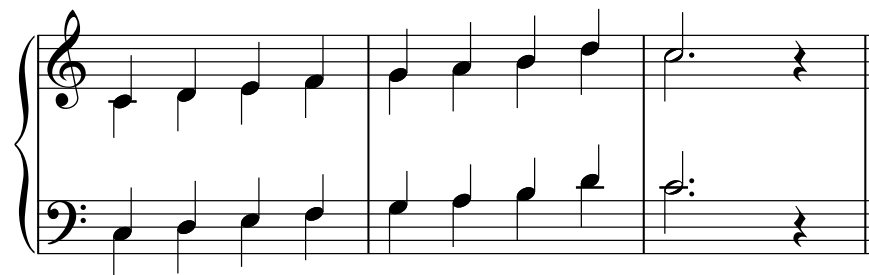


付点四分音符+八分音符という組み合わせも悪くない。

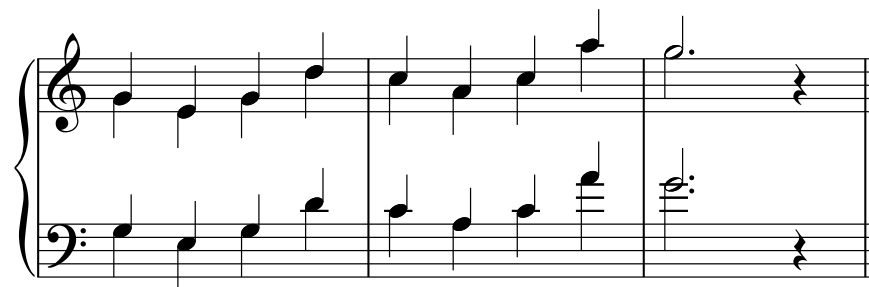


フォーカス度の低い進行を選ぶ

順次進行に徹する。



アルペジオでコードをなぞる。



2つの旋律のフォーカス度をなるべく一致させる

もっとも意識すべきポイントは各声部の「運動量」。上声部の運動量を控えめに、下声部の運動量を多めにすることでバランスを取ることができる。

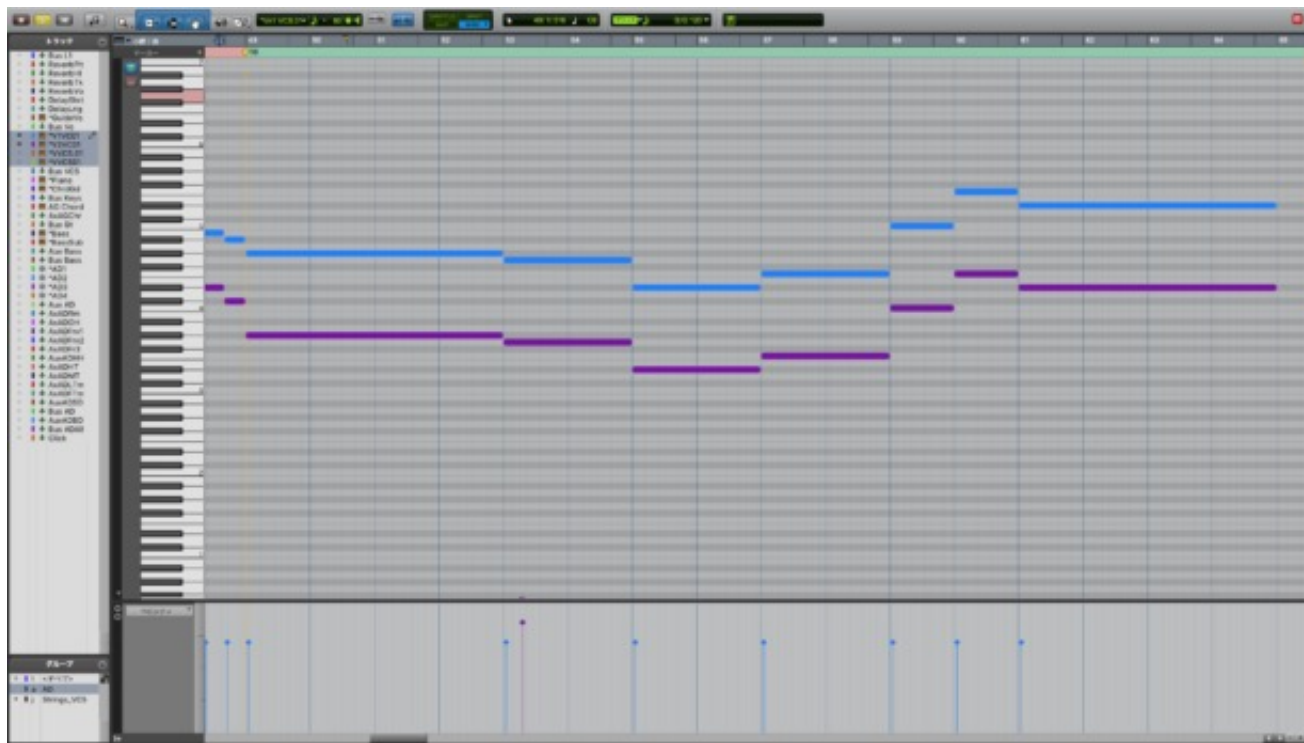


デュアルオブリガート型のアレンジ手順

- ① 上声部を白玉だけで書く
- ② 下声部を書く
- ③ 下声部のフレーズのスキマを狙って上声部を動かす

① 上声部を白玉だけで書く

上声部は「白玉多め」のラインに仕上げることがポイント。最初は、全部白玉でラインを作るくらいのシンプルさでOK。



② 下声部を書く

ViolaとCelloで下声部のメロディを作っていく。下声部は運動量が多めでも問題ないため、普通のメロディを作る感覚でしっかり動きを入れていこう。



③ 下声部のフレーズのスキマを狙って上声部を動かす

最後に、上声部にも動きを入れていく。下声部のラインの中で動きが落ち着くポイント(フレーズの最後など)を狙って、上声部に適度な動きをプラスしていこう。

下声部のフレーズが落ち着くポイントを見計らって
上声部に動きを入れていく